

2014 年度 センター試験 本試験 世界史 A

第 1 問 歴史上の人や物の移動

出題範囲	7 世紀～ 20 世紀の人や物の移動
難易度	★★★☆☆
所要時間	15 分
傾向と対策	2014 年度の第 1 問。A の問 3 は、正確な知識が要求される。朝鮮半島の王朝の興亡は、中国本土の歴史とリンクしていることが多い。頻出分野なので、しっかり整理して覚えよう。B はどれも基本問題。もし間違えていたら、しっかり復習しよう。C の問 10 の移民の歴史は、教科書に記述が散乱しているので間違えやすい。自分なりに理解しやすくまとめ直すといった工夫が必要だ。

A

問 1 1 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

出題分野は、海のネットワーク。中国商人が利用した船の種類と、それを表す図に関する問題。ダウ船とジャンク船は混同されやすいので、特徴がつかめるようになるまで復習を重ねよう。中国商人がおもに利用したのはジャンク船。ジャンク船は、四角い帆をもつ木造の帆船で、宋代以降に中国の海洋交易で活躍した。鄭和の南海遠征で利用された宝船も、ジャンク船の一種。ちなみに、ダウ船 (b) は、ムスリム商人がおもに利用した三角帆の帆船。季節風 (モンスーン) を利用し、アラビア海・インド洋での交易で広く用いられた。

問 2 2 正解は④

難易度 ★☆☆☆☆

解説

出題分野は、①ルネサンスと宗教改革、② 19 世紀の欧米文化、③諸民族の抵抗運動、④東アジア世界の形成。元代にアフリカやユーラシア大陸を旅した人の名前に関する知識問題。正解以外の選択肢の人物の業績も確認しておく、知識の定着に役立つ。ちなみに、センター試験ではリヴィングストンが頻出項目であるため、よく確認しておくといよい。

- ① 誤 フランシスコ＝ザビエル (1506 年頃～ 1552 年) は、明代に存在したスペイン出身のイエズス会創設者。インド・東南アジアで布教活動を実施し、1549 年に日本に到着した。
- ② 誤 リヴィングストン (1813～1873 年) は清代に存在した人物で、南部アフリカを横断し、ナイル川水源を確認したイギリスの探検家。1855 年にヴィクトリア瀑布を発見し、彼の発見はのちに帝国主義列強の

植民地政策に利用されるようになった。

- ③ 誤 **アギナルド** (1869～1964 年) は、**清代**に存在した人物で、フィリピンの独立運動を展開した。アメリカ＝スペイン戦争ののち、1898 年にフィリピンの独立を宣言したが、アメリカはこれを認めず、フィリピン＝アメリカ戦争が始まった。
- ④ **正** **イブン＝バトゥータ** (**イブン＝バトゥータ**, 1304～1368 年頃) は、**元代**に実在した、モロッコ生まれのムスリムの旅行家。西・中央アジアやインドを経て**大都**に到着し、『**三大陸周遊記**』を著した。

問 3 **3** **正解は③**

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、①、②東アジア世界の形成、③諸民族の抵抗運動、④グローバル化と多極化。朝鮮半島の歴史に関する問題。世紀と出来事に齟齬がないかを確認する問題で、難しそうに見えるが、それぞれの出来事にどういう背景があるかを考慮すれば、そう難しくはない。

- ① 誤 **百済**が滅亡したのは、**7 世紀**後半 (660 年)。**唐・新羅**が結託して、660 年に百済を滅ぼし、**663 年**には**白村江の戦い**で日本・百済軍は再び唐・新羅軍に敗北した。ちなみに、7 世紀後半には、新羅が朝鮮半島を統一し、支配している (676 年～)。
- ② 誤 **高麗**が建国されたのは、**10 世紀**前半 (918 年)。**高麗**は、新羅末の動乱で台頭した**王建**が建国した国で、都は**開城**に置かれた。936 年には朝鮮半島を統一し、958 年には中国から採り入れた**科挙**制度を整備した。13 世紀にはいると**モンゴル**帝国の侵入を受け、1259 年にはモンゴル帝国に**服属**した。その後、高麗は倭寇の侵入に苦しみ、1392 年に**李成桂**が高麗を倒して朝鮮 (李朝) を建国した。
- ③ **正** 朝鮮 (李朝) が国号を**大韓帝国**と改めたのは、**19 世紀**末 (1897 年)。1894 年の**日清戦争**で宗主国であった清が敗北し、翌年の下関条約で朝鮮の清からの完全**独立**が決定したことを示すため、**高宗**が大韓帝国と改称し、自らが皇帝に即位した。
- ④ 誤 **南北首脳会談**が開催されたのは、**20 世紀**末 (**2000 年**)。南北首脳会談に参加したのは、**金正日** (北朝鮮) と**金大中** (韓国)。この会談において、南北共同宣言が発表されたが、緊張緩和には至らなかった。ちなみに、**20 世紀**前半には、まだ南北は分裂しておらず、日本の支配を受けていた (1910～1945 年)。

問 4 **4** **正解は②**

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、①中国文明の始まりと中国の統一、②東アジア世界の形成、③第一次世界大戦と世界、④グローバル化と多極化。世界史上の通貨に関する問題。「誤っているものを選ぶ」ことに留意する。特に中国の貨幣は頻繁に変わるため、注意が必要だ。「参考 **中国の貨幣の歴史**」を参考にしてもらいたい。

- ① **正** **秦の始皇帝**は、貨幣の統一を進め、**半兩錢**を使用した。始皇帝は、郡県制による中央集権制を確立し、

貨幣・文字・度量衡を統一した。また、法家思想の李斯^{りし}を登用し、焚書^{ふんしよ}・坑儒^{こうじゆ}による思想統制を行った。

- ② 誤 交鈔^{こうしやう}を発行したのは、元と金。交鈔は、北宋の交子に由来する。銀とともに広く流通したが、13世紀初めには濫発され、経済が混乱した。ちなみに、唐が発行した送金手形制度は、飛錢^{ひせん}。飛錢は、遠隔地交易の発達や、銭納を原則とした両税法の施行において、銅銭の大量輸送が不便だったため生まれた。
- ③ 正 第一次世界大戦後に、ドイツは大インフレーションに見舞われた。1923年に、ドイツの賠償支払い遅延を口実に、フランス・ベルギー軍がドイツ鉱工業地帯のルール地方を占領した結果、ドイツが消極的抵抗（サボタージュなど）を実施したため、工業生産が停滞し、物価が急上昇した。マルクの価値は1兆分の1にまで下落し、経済的・社会的危機に陥った。このインフレに対し、シュトレゼマンが通貨改革（ Rentenマルクの発行など）を実施し、インフレは急速に収まった。
- ④ 正 1997年にタイでアジア通貨危機が始まった。1997年に、タイが為替の自由化を実施し、これをきっかけに、韓国やインドネシアなどに通貨の下落が広まった。貿易の減少や世界同時不況を恐れたIMF（国際通貨基金）は、緊急融資を実施し、厳しい構造改革を促した。これにより、インドネシアのスハルト政権が退陣した。

◆参考 中国の貨幣の歴史

春秋戦国時代：青銅貨幣 = 刀銭（齊・燕）、円銭（齊・秦・魏）、布銭（韓・魏・趙）、蟻鼻銭（楚）

秦：銅銭 = 半兩銭（秦の始皇帝により統一）

前漢：銅銭 = 五銖銭（武帝により製造）→ 隋まで使用される

唐：送金手形制度 = 飛銭

北宋：世界初の紙幣 = 交子（金融業者が発行）／南宋：紙幣 = 会子（政府が発行）

元：紙幣 = 交鈔

明：紙幣 = 宝鈔

中国国民党：銀行券 = 法幣（1935年の幣制改革で貨幣の統一を目指した）

◆整理 第一次世界大戦後のドイツの賠償金問題

ヴェルサイユ条約 (1919 年)

↓

ロンドン会議 (1921 年) : 賠償金が 1,320 億金マルクに決定。

↓

ルール占領 (1923 年) 【仏・ベルギー】: ドイツの消極的抵抗→大インフレ→ Rentenマルク発行で収束。

↓

ドーズ案 (1924 年) 【米】: 米資本の貸与 + 支払い方法・期限緩和→独経済再興

↓

独経済安定期 (1924 ~ 1929 年) : ロカルノ条約 (1925 年), 国際連盟加入 (1926 年)。

↓

ヤング案 (1929 年) 【米】: 賠償金を 358 億金マルクに減額。

↓ 世界恐慌起こる

フーヴァー = モラトリアム (1931 年) 【米】: 戦債・賠償支払い 1 カ年停止猶予。

↓

ローザンヌ会議 (1932 年) : 賠償金を 30 億金マルクに減額 + 支払い延期。

↓

ナチス政権の支払い打ち切り宣言 (1933 年)。

B

問 5 5 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

出題分野は、ヨーロッパ世界の拡大。先住民の諸文明についての正誤問題。a は引っ掛け問題となっている。古アメリカ文明は、センター試験において頻出の題材であるため、得意分野にしておきたい。「整理 古代アメリカ文明」を参照してもらいたい。

a 誤 アステカ王国を含む古アメリカ文明は、鉄器を使用しなかった。彼らの社会では、車両・馬・牛などの大型家畜は存在せず (リヤマ・アルパカなどの小型家畜は存在)、鉄器は用いられなかった。ただし、金・銀・青銅器は使用されていた。

※古アメリカ文明では、鉄器が使用された→× (誤)

※古アメリカ文明では、金属が使用された→○ (正)

- b 正 インカ帝国では、キープ（結縄）が使用された。インカ帝国では文字がなかったため、キープの紐の色や結び目の数・位置などで人口や穀物量などが表され、16 世紀まで使われた。

◆整理 古代アメリカ文明

▷マヤ文明（4～16 世紀）

中心地：ユカタン半島（中央アメリカ）

文字：マヤ文字

特色：ピラミッド・神殿と暦法が発達。二十進法。

衰退：16 世紀にスペイン人によって滅亡。

▷アステカ文明（14 世紀～1521 年）

中心地：メキシコ～パナマ，首都はテノチティラン

文字：アステカ文字

特色：神権政治（太陽崇拝）を展開。石造建築の技術が発達。

衰退：1521 年にコルテスによって滅亡。

▷インカ文明（1200 年頃～1533 年）

中心地：アンデス高地（南アメリカ），首都はクスコ

文字：キープ（結縄）

特色：神権政治（太陽崇拝）を展開。石造建築の技術が発達。

衰退：1533 年にピサロによって滅亡。

問 6 6 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、列強による世界分割。第一次世界大戦まで独立を保ったアフリカの国を地図上の位置で示す問題。あまりなじみのないアフリカについての地図問題であるため、難しく感じるかもしれない。このような時のために、せめて独立国の位置は覚えておくといよい。ほかの国に関しては、縦断・横断政策で検討がつかだろう。

- ① 誤 a はアルジェリアが該当する。アルジェリアは 1830 年にフランスに占領された。16 世紀以降オスマン帝国領であったアルジェリアをシャルル 10 世が占領し、ルイ＝フィリップが直轄領（1842 年）とした。
- ② 誤 b はカメルーンが該当する。カメルーンは 1884 年からドイツが植民地化に着手し、1902 年に正式にドイツの植民地となった。
- ③ 正 c はエチオピアが該当する。エチオピアは 1870 年代から西欧列強の干渉・侵入を受けるも、独立を維持した。1895 年にイタリア軍の侵入を受けたが、1896 年のアドワの戦いでイタリア軍は完敗した。

- ④ 誤 dは**マダガスカル**が該当する。**マダガスカル**は1896年に**フランス**が領有を宣言した。17世紀以降オランダ・フランス・イギリスが進出を争ったが、ベルリン会議にてフランスの勢力圏として決定し、1896年に正式に領有した。

※第一次世界大戦までに独立を維持：**リベリア・エチオピア**。

問7 7 正解は④

難易度 ★☆☆☆☆

解説

出題分野は、米ソ両大国の動揺。キューバ危機が起こった時のアメリカ大統領に関する問題。アメリカの現代史は覚えることが多いが、重要なものを1つひとつ覚えていこう。

キューバ危機（1962年）：ソ連がキューバにミサイル基地の建設を画策したことを直接のきっかけに、アメリカがその撤去を強く求めたことで、対立がエスカレートした。最終的にソ連がミサイルを撤去し、最悪の事態には至らなかった。

- ① 誤 サッチャーは、1980年代（1979～1990年）の**イギリス**の首相。イギリス初の女性首相で、福祉政策に依存して勤労意欲を失い、国際競争力が低下する「イギリス病」にかかっていたイギリスを、福祉の縮小・国営企業の民営化などを進めることで「小さな政府」の形成を図り、経済再建にいそしんだ。国外では、フォークランド紛争・アイルランド問題など強硬路線を取ったことで、「鉄の女」と呼ばれた。
- ② 誤 レーガンは、**1980年代**（1981～1989年）のアメリカの大統領。「強いアメリカ」をうたい、対ソ強硬策を採用した。また、サッチャーとともに新保守主義の姿勢をとった。元俳優ということもあり、就任当初は高い支持率を得たが、「双子の赤字」（貿易赤字・財政赤字）が拡大してしまい、アメリカ経済が弱体化した。
- ③ 誤 ヒンデンブルクは、**戦間期ドイツ**の大統領。元参謀総長（軍人）で、1925年にヴァイマル共和国第2代大統領として当選し、帝政派・右翼・軍部を援護したが、世界恐慌に対処できず、ナチスの台頭を許す結果となってしまった。1933年にヒトラーを首相に任命した。
- ④ 正 ケネディは、**1960年代前半**（1961～1963年）のアメリカの大統領。**1962年**のキューバ危機を乗り切り、1963年の英・ソとの部分的核実験停止条約の調印や公民権法の提案などをこなした。彼の任期は満了されないまま、1963年11月に遊説中に暗殺された。

◆参考 アフリカにおける（影の薄い）列強の勢力圏 ※地図で確認！

ドイツ領：トーゴ、カメルーン、独領東アフリカ（現タンザニア）、独領南西アフリカ（現ナミビア）
 イタリア領：トリポリ・キレナイカ（現リビア辺り）、エリトリア、伊領ソマリランド
 ポルトガル領：ポルトガル領ギニア（現ギニアビサウ）、アンゴラ、モザンビーク
 スペイン領：リオデオロ（現西サハラ〈モロッコの南方〉）、現赤道ギニア
 ベルギー領：ベルギー領コンゴ

C

問 8 8 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

出題分野は、①列強による世界分割、②アメリカ大陸の動向、③オスマン帝国の動揺と民族の自覚、④グローバル化と多極化。オセアニアのイギリス植民地における先住民の歴史についての問題。(1)事実誤認の有無、(2)オセアニアのイギリス植民地における先住民についての記述であるか否か、の2点を検討する必要がある。

- ① 正 ニュージーランドの先住民は、マオリ（マオリ人）。1642年にタスマンはニュージーランドに到着し、1840年にニュージーランドはイギリス植民地となった。
- ② 誤 黒人奴隷が蜂起し、ハイチ（ハイティ）共和国が成立したのは、カリブ海（オセアニアではない）。蜂起した黒人奴隷は、トゥサン＝ルヴェルチュールで、彼はハイチでの黒人の反乱を指導し、1794年にフランス本国のジャコバン派政府に奴隷解放を宣言させることに成功した。1801年にハイチ議会は憲法を制定したが失敗に終わり、動乱のあと1804年の元日に独立を宣言するに至り、世界最初の黒人共和国が誕生した。
- ③ 誤 タンジマート（恩恵改革）を進めたのはオスマン帝国。1839年にアブデュル＝メジト1世によりギョルハネ勅令が発表され、タンジマートが開始された。タンジマートの目的は、帝国を再組織化し、外敵に対抗することであり、上からの西欧化（近代化）の改革であった。公正な徴税・裁判の実施や生命・名誉・財産の保障を内容とし、ムスリムと非ムスリムの「法の下での平等」を含んだ。結果、帝国の再集権化は実現されたが、殖産興業の視点が欠如していたために、ヨーロッパ工業製品が流入したことによる伝統産業の衰退や、改革に伴い外債が急増するなどの弱点があった。
- ④ 誤 先住民へのアパルトヘイト政策（人種隔離政策）が行われたのは、南アフリカ。1910年のイギリス帝国の自治領としての南アフリカ連邦成立後、原住民土地法で黒人を隔離したことでアパルトヘイトが展開された。1961年にイギリス連邦を脱退し、南アフリカ共和国が成立したあともアパルトヘイトは続き、他国からの経済制裁も強化された。1991年にデクラーク大統領（白人）がアパルトヘイト体制の終結を宣言し、その後、総選挙で初の黒人大統領マンデラが誕生した。

問 9 9 正解は②

難易度 ★☆☆☆☆

解説

出題分野はヨーロッパ世界の拡大。ジャガイモの原産地と、その原産地を同じくする作物の組み合わせ問題。アメリカ大陸が原産地の作物に関する問題は、センター試験において比較的頻出であるため、よく復習しておこう。

多くの作物がアメリカ大陸から来ている。ジャガイモの原産地は、**アメリカ大陸**。同じ原産地として挙げられる作物は**トマト**、**トウモロコシ**、**サツマイモ（甘藷）**、唐辛子、カカオ、タバコなど。ジャガイモは寒冷に強く、トウモロコシは乾燥に強いことから、アメリカ大陸から世界各地に伝播した際に、世界の食糧事情が大きく改善された。

※コーヒー：アフリカ大陸原産

※バナナ：東南アジアが原産地とされている

問 10 10 正解は④

難易度 ★★★★★

解説

出題分野は、**a** 第一次世界大戦と世界、**b** アメリカ大陸の動向。アメリカ合衆国における移民の歴史に関する正誤問題。**a** の「移民法」に関することは、あまり取り上げられないから、やや難しい。詳しくは解説を読んでほしい。

- a 誤** 1924 年の移民法によって、移民受け入れ制限が強化され、移民数が急減した。1882 年に制定された移民法では、中国人の移民が厳しく制限された。1924 年の移民法では、19 世紀末以降に増加した東・南欧系の移民（新移民）への制限が強化され、さらにはアジア系移民は全面的に禁止された。
- b 誤** インディアン強制移住法により、先住民はミシシッピ川以西の居留地に移された。インディアン強制移住法は 1830 年にジャクソン大統領によって制定された。この移住は過酷なもので、その旅路は「涙の道」とも称されている。ジャクソン大統領の時代は、ジャクソニアン＝デモクラシーとも呼ばれ、当時は白人男性の普通選挙権がほぼ実現し、庶民の発言力が大きくなっていった。彼は庶民の味方をし、政治的・経済的な民主化の達成に成功した。

問 11 11 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

出題分野は、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題。第二次世界大戦後のアメリカ諸国の歴史に関する問題。「誤っているものを選ぶ」ことに留意する。戦後のアフリカは、いろいろな情報があって混同しやすいが、自分なりに整理して、しっかり覚えておこう。

- ① 誤 スエズ運河国有化を宣言したのは、**エジプト**。ナセル大統領は、アラブ民族主義にもとづく経済的自立を目指していた。彼が国民投票によって大統領に就任すると、アメリカなどが**アスワン＝ハイダム**の建設資金援助を凍結した。それに対抗するために、**1956年**にスエズ運河の国有化を宣言した。これに対し、イスラエルは突如エジプトに侵入を開始し、**第2次中東戦争（スエズ戦争）**が勃発した。イスラエル軍に続いて**英仏軍**も出兵したが、国連の即時停戦決議とソ連のエジプト支援声明が出されたため、侵入軍は撤退した。
- ② 正 **1960年**は、アフリカの17カ国が独立したことから、「**アフリカの年**」と呼ばれた。1960年に独立を達成した国は、ナイジェリア・カメルーン・コンゴ・ソマリアなどが挙げられる。「アフリカの年」以降も15カ国以上が独立した。（アルジェリア・ケニア・タンザニアなど）
- ③ 正 **アフリカ統一機構（OAU）**が成立したのは**冷戦期**（1963年）。アフリカ独立諸国首脳会談で結成され、アフリカの諸問題を討議する場となった。ちなみに、OAUの改組である**アフリカ連合（AU）**が発足したのは、冷戦終結後の2002年。
- ④ 正 **コンゴ内戦**が生じたのは、**独立後**。コンゴは1960年5月にベルギーから共和国として独立したが、ルムンバ率いる中央集権派とカサブ率いる地方分権派が対立し、さらにベルギーの支援を受けた鉱物資源の豊富なカタンガ州分離独立問題が絡んで内戦が起こった。この内戦の最中にルムンバは殺害された。

◆整理 アフリカ各国の独立後の問題点

- ・ 植民地時代の人為的な国境線を引き継いだことによる**民族紛争・部族紛争**。
- ・ 国民教育や民主主義の歴史が浅いことからの**独裁政治**の存続。
- ・ 旧宗主国・白人資本による**経済支配**。
- ・ **モノカルチャー経済**からの脱却が困難なため生じる、貧弱な経済体質、慢性化する国民の貧困。

（制作：重森理瑛，的場光紀）

2014年度 センター試験 本試験 世界史 A

第2問 世界史上の戦争と戦後処理

出題範囲	紀元前3世紀～20世紀の戦争と戦後処理
難易度	★★★☆☆
所要時間	15分
傾向と対策	2014年度の第2問は、まずAの問4で整理した軍隊・兵器の変化は重要なのでおさえておいてほしい。軍隊様式の歴史は、教科書に記述が散在しているので、整理して覚えよう。Bの問5は、消去法ではなく、正解を一発で選んでほしい問題である。Cは基本問題が多いので、しっかり正解してほしい。

A

問1 12 正解は③

難易度 ★☆☆☆☆

解説

出題分野は、中国文明の始まりと中国の統一。文章中の穴埋め問題。キーワードを捉えられれば、正解にたどり着ける。ほかの選択肢も、いつの時代、どの地域に出現したかなどを確認しておくとうい。キーワードは、「漢を破って」「中央ユーラシアの遊牧国家」の2つ。

- ① 誤 パルティアは、前漢・後漢と同時期に存在はしていたが、「中央アジアの遊牧国家」ではなく、おもに西アジア地域に勢力を拡大していた。「絹の道」の西部を占め、東西文明の交流に大きく貢献した。
- ② 誤 スキタイは、B.C.6～B.C.4世紀頃（≠漢）南ロシア草原地帯を支配した騎馬遊牧民。スキタイは強力な軍事力を保持し、内陸アジアの遊牧民に大きな影響を与えた。
- ③ 正 匈奴は、前漢と同時期に存在し、モンゴル高原で活躍した遊牧民であり、戦国時代以降、しばしば中国に侵入していた。秦代には、蒙恬が匈奴を破ったが（B.C.215年）、前漢時代に冒頓単于が高祖を破った（B.C.200年）。匈奴は、前漢の武帝による攻撃とB.C.1世紀以降の内紛で分裂し、衰退した。
- ④ 誤 吐蕃は、7～9世紀（≠漢）にチベットに建国された国。7世紀に隆盛し、唐への侵入を行った歴史ももち、安史の乱に乗じて一時長安を攻略したこともあったが、9世紀前半には唐と会盟を結んだ。インド・唐と交流し、チベット文化の基礎を築いた国でもある。

問 2 13 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、a アメリカ大陸の動向、b 第一次世界大戦と世界。苦力（クーリー）と女性の労働力に関する正誤問題。深くは取り上げられない内容ではあるが、しっかり用語を覚えておこう。また、苦力に関しては、いつの時代にどこに移住したかなども確認しておこう。

- a 正 苦力は、中国人・インド人を中心とするアジア系の移民の蔑称。彼らは、低賃金で過酷な労働を強いられた。
- b 正 第一次世界大戦中は、労働不足を補うために、女性も軍需工場で働いた。この世界大戦で出現した言葉として、「総力戦」(国内でいかに全国民を動員して生産し、補給体制を整えていくかに勝敗がかかっている戦争)がある。

問 3 14 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、南アジア・東南アジアの植民地化。イギリスの東南アジアにおける植民地拠点の名と、その地図上での位置に関する問題。地図問題に備えて、普段から地図を利用して学習するとよい。この問題を機に、各国の植民地拠点を確認しておこう。

まず、地名と地図上での位置が一致しているのは、①と④。イギリスの東南アジアにおける植民地拠点は、シンガポール。よって、正解は①のシンガポールー a とわかる。シンガポールは、マレー半島の南端に面する島で、1819年にラッフルズが買収し、新市を建設した。1824年にイギリス領となり、イギリスの東南アジア地域における最大の拠点となった。ちなみにマニラは、1571年にスペインがルソン島に築いた貿易拠点である。

問 4 15 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、①ルネサンスと宗教改革、②主権国家の形成、③第一次世界大戦と世界、④第二次世界大戦と世界。戦争の様式に関する問題。「誤っているものを選ぶ」ことに留意する。①や②のような軍の様式は、時代に関連付けて覚えるとよい。

- ① 誤 ルネサンス期は、傭兵の発達によって、騎士が没落した。中世末期に、歩兵の活躍や火器の普及により生じた戦術の変化の結果、戦場ではおもに騎兵として参戦していた騎士階級の没落が早まった。代わりに、金銭によって雇用される傭兵の役割が大きくなった。
- ② 正 絶対主義（絶対王政）国家では、常備軍が整備されていた。強大な国王権力が官僚と常備軍を備えて、貴族・聖職者などの封建勢力や台頭してきた特権商人を支配し、最高の権力（主権）をもった。

- ③ 正 ドイツは、第一次世界大戦で無制限潜水艦作戦を展開した。ティルピッツ提督率いるドイツ海軍が1915年に開始した無制限潜水艦作戦を、一時中断ののち1917年に再開した。軍事的に劣勢になったドイツの対イギリス逆封鎖戦術であったが、この作戦を理由に同年にアメリカが参戦し、戦況は連合国側に有利に展開されていった。アメリカ参戦の根本的な理由は、イギリス・フランスの敗北による対米負債の支払いの困難化を防ぐためである。
- ④ 正 第二次世界大戦で、アメリカによって、核兵器が初めて実戦使用された。第二次世界大戦中、1945年にアメリカは、ウランやプルトニウムの核分裂を利用した核兵器（原子爆弾）の実験に成功し、8月に日本の広島・長崎に投下した。

◆整理 軍隊・兵器の進化と変遷

古代オリエント：戦車（馬車）部隊，刀・槍・弓矢
 古代ギリシア・ローマ：重装歩兵部隊
 中世ヨーロッパ：重装歩兵（騎士）部隊
 近世ヨーロッパ：傭兵による歩兵部隊，大砲・小銃の普及
 アメリカ独立戦争：ライフル銃の出現
 革命戦争～ナポレオン戦争：徴兵制による国民部隊
 南北戦争：装甲軍艦・機関銃・地雷の出現
 第一次世界大戦：戦車・潜水艦・化学兵器（毒ガス）の出現
 第二次世界大戦：ロケット・ジェット機・レーダー・核兵器の登場

B

問5 16 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、①ルネサンスと宗教改革，②，④イスラーム世界の再編，③フランス革命とナポレオン。16世紀に起こった出来事に関する問題。「誤っているものを選ぶ」ことに留意する。①については宗教改革と，④についてはオスマン帝国の絶頂期と結び付けられる。このようにして、それぞれの出来事が起こった時期を探っていくと、正解にたどり着ける。

- ① 正 ルターが、「95カ条の論題（意見書）」を発表したのは、16世紀前半（1517年）。ヴィッテンベルク教会で発表した、^{しよくゆうじょう}贖宥状の販売を批判する文書。魂の救済は福音への信仰のみによるという確信から、贖宥状と魂の救済は無関係であると主張した。その主張は大きな反響を呼び、ドイツ宗教改革が始まった。
- ② 正 イランでサファヴィー朝が成立したのは、16世紀初め（1501年）。サファヴィー朝は、イスマーイー

ル 1 世によって建国され、スーフィー教団を基盤とし、シーア派（特に十二イマーム派）を国教とした。アッバース 1 世の時期に最盛期を迎え、1598 年にイスファハーンに遷都した。イスファハーンは「世界の半分」と称されるほど繁栄した。

- ③ 誤 ナポレオンがワートルローの戦いに敗れたのは、19 世紀前半（1815 年）。ナポレオンは 1813 年のライプチヒの戦い（諸国民戦争）で敗北し、翌年にエルバ島に配流された。彼は 1815 年にパリに帰還して帝政を復活したが、イギリス・プロイセン・オランダ連合軍にワートルローの戦いで敗北し、セントヘレナ島への流刑が決定した（百日天下）。
- ④ 正 スレイマン 1 世がウィーン包囲を実施したのは、16 世紀前半（1529 年）。1529 年の第 1 次ウィーン包囲は、ハンガリーの王権を巡って神聖ローマ皇帝カール 5 世とスレイマン 1 世が対立した。オスマン軍は冬の寒さを受けて撤退を余儀なくされたが、この結果ハンガリーの大部分がオスマン帝国の直轄領となった。ちなみに、1683 年の第 2 次ウィーン包囲は、オーストリア軍に撃退されて失敗し、オスマン帝国の衰退のきっかけとなった。

問 6 17 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

出題分野は、a 主権国家の形成、b アメリカ独立革命。18 世紀に起こった出来事に関する正誤問題。この問題では、(1)事実誤認の有無、(2)18 世紀の出来事か否か、の 2 点に注目して問題を読み進めたい。a は(1)と(2)ともに問題はないが、b は(2)が満たされていても(1)に難がある。この時期に起こる戦争は、どの国がどの国の味方かを間違えやすいため、まとめておくとよい。

- a 正 オーストリア継承戦争は、18 世紀前半（1740 年）に勃発した。マリア=テレジアの家領相続を巡ってオーストリアとプロイセンが対立した。1748 年に結ばれたアーヘンの和約で、オーストリアはシュレジエンをプロイセンに割譲することが決定されたが、シュレジエン奪還を目的とした七年戦争（1756～1763 年）の勃発につながった。
- b 誤 アメリカ独立戦争で、フランスはアメリカを支援した。1775 年から開始したアメリカ独立戦争は、最初はイギリス対 13 植民地で成り立っていたが、1778 年以降 1 年刻みでフランス・スペイン・オランダの順で参戦し、イギリスに対抗した。また、1780 年には、ロシアのエカチェリーナ 2 世を筆頭に武装中立同盟が結成され、アメリカを支援した。

問 7 18 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

出題分野は、①、②、③第一次世界大戦と世界、④第二次世界大戦と世界。2 つの世界大戦に関する問題。この問題は、正答と似ているキーワードを波線部に持ってくることで引っ掛けようとしている。知識をあいまいな

ままにせず、正確さをもつようにしよう。

- ① 誤 オーストリア帝位継承者夫妻を暗殺したのは、セルビア人青年プリンチップ。オーストリアが併合したボスニアの州都で起きたサライエヴォ事件は、第一次世界大戦のきっかけとなった。事件のちょうど1カ月後（1914年7月28日）にオーストリアはセルビアに宣戦布告した。
- ② 誤 第一次世界大戦中に、イギリスは、フセイン＝マクマホン協定でアラブ独立を約束した。1915年にイギリスとメッカ太守はフセイン＝マクマホン協定を締結し、対オスマン帝国反乱を条件に、イギリスはアラブ人独立国家の支持を約束した。これは、イギリスの三枚舌外交の1つで、ほかに対フランス・ロシアのサイクス・ピコ協定（1916年）、対ユダヤ人のバルフォア宣言（1917年）がある。
- ③ 正 戦間期に、アメリカ合衆国は国際連盟に参加しなかった。1920年に発足した国際連盟は、アメリカのウィルソン大統領が提唱した機関。アメリカでは大戦後に孤立主義的風潮が高まり、上院でヴェルサイユ条約の批准が否決されたため、国際連盟への不参加が決定した。アメリカなどの大国の不参加は、連盟の意義を低下させた。
- ④ 誤 第二次世界大戦中に、イギリス（チャーチル）は、アメリカ（ローズヴェルト）とともに大西洋憲章を発表した。1941年に発表された大西洋憲章では、領土不拡大・国際機構の再建・民族自決などが主張された。ちなみに、この時期のフランスでは、本国にあるヴィシー政府とロンドンにある自由フランス政府の2つの政府が樹立されている。

◆整理 イギリスの三枚舌（多重）外交

▷フセイン＝マクマホン協定（1915年）

イギリスとアラブの間で締結。

内容：アラブ人独立国家支持を約束（対オスマン帝国反乱が条件）。

▷サイクス・ピコ協定（1916年）

イギリスとフランス・ロシアの間で締結。

内容：英仏露でオスマン帝国領分割が決定、パレスチナを国際管理下に置くことが決定。

▷バルフォア宣言（1917年）

イギリスがユダヤ人に向けて発表。

内容：ユダヤ人のパレスチナでの国家建設を支持（大戦の財政援助が条件）。

C

問 8 19 正解は④

難易度 ★☆☆☆☆

解説

出題分野は、①オスマン帝国の動揺と民族の自覚、②ヨーロッパ諸国の再編、③諸民族の抵抗運動、④第二次世界大戦と世界。文章中の空欄補充問題。空欄アに入る言葉にかかわってくるキーワードを文章中から探し出せば、正解にたどり着く。キーワードは、「1938年」「(ズデーテン地方の) ドイツへの割譲が決定」の2つ。

- ① 誤 カルロヴィッツ条約は、1699年にオーストリア（ポーランド・ヴェネツィア）とオスマン帝国の間で締結された条約。この条約により、オスマン帝国はオーストリアにハンガリーを割譲し、以後ヨーロッパでのオスマン帝国の勢力は弱まった。
- ② 誤 ベルリン会議（1878年）は、サン＝ステファノ条約によるロシアの東地中海・バルカン半島への進出に対して、イギリス・オーストリアが反対し、国際危機を招いたため、ビスマルクが調停に立って開催された国際会議。この会議で締結されたベルリン条約（1878年）では、ルーマニア・セルビア・モンテネグロの独立承認、ブルガリアの領土を縮小してオスマン帝国の宗主権下の自治国とすることなどが約束された。なお、1884年のベルリン会議では、アフリカにおける先占権が確認された。
- ③ 誤 ポーツマス条約は、日露戦争の講和条約として1905年に締結された条約。この調印には小村寿太郎とウイッテが参加した。
- ④ 正 ミュンヘン会談は、1938年に開催された、ズデーテン問題に関するチェンバレン（英）、ダラディエ（仏）、ムッソリーニ（伊）、ヒトラーの会談。ズデーテン地方の獲得のためなら戦争をいとわないとしたヒトラーに対し、戦争勃発を極力避けたかった英仏は、これ以上の領土要求をしないことを条件にヒトラーの要求を認め、宥和政策を展開した。当事国であるチェコスロヴァキアはこの会談に招かれず、同様に招かれなかったソ連は、英仏に対し不信感を深めた。

◆整理 ベルリン条約の内容と結果

内容

- ・ルーマニア・セルビア・モンテネグロの独立承認。
- ・ブルガリアの領土を縮小し、オスマン帝国の宗主権下の自治国とする。
- ・オーストリアがボスニア・ヘルツェゴヴィナの統治権獲得。
- ・イギリスがキプロス島の行政権獲得。

結果：イギリスの勝利、ロシアの南下政策阻止。

◆整理 ポーツマス条約の内容

- ・朝鮮半島における日本の優越権を認める。
- ・遼東半島南部の租借権を日本に譲渡。
- ・東清鉄道支線（南満州鉄道）を日本に譲渡。
- ・北緯 50 度以南の南樺太を日本に割譲。

問 9 20 正解は③

難易度 ★☆☆☆☆

解説

出題分野は、①産業革命、②大西洋世界の展開とアジアへの進出、③、④第一次世界大戦と世界。ドイツの歴史に関する問題。問題に正解しても、正解以外の選択肢がどこの国での出来事かを確認しておきたい。

- ① 誤 ラダイト（ラッドライト）運動が起こったのは、イギリス。産業革命期に、機械が誕生して作業が自動化されていく中で、手工業者や労働者は職を失い、生活が苦しくなっていった。彼らはその原因が機械にあるとし、機械打ちこわし運動と呼ばれる暴動を 1810 年代に起こした。ラダイト運動はその代表的なもの。最終的には、政府の厳しい弾圧策によって鎮圧された。
- ② 誤 コルベールが重商主義政策を進めたのは、フランス。コルベールは、ルイ 14 世の時代に財務総監として仕え、重商主義政策を展開した。また、王立マニユファクチュアの創設や 17 世紀後半（1664 年）の東インド会社の再建を実施し、財政を充実させた。
- ③ 正 バグダード鉄道の敷設権を得たのは、ドイツ。19 世紀末（1899 年）にオスマン帝国からバグダード鉄道敷設権を獲得したドイツ（ヴィルヘルム 2 世）は、3B 政策の展開を図った。1903 年に会社を設立するも、最終的には一部分だけの開通に留まった。
- ④ 誤 新経済政策（ネップ）を実施したのは、ソ連（開始時はソヴィエト政権下のロシア）。1921 年から実施された新経済政策は、レーニンによって提唱された経済政策で、それ以前の戦時共産主義を廃止し、修正路線をたどったもの。新経済政策では、農民による収穫物の自由な販売（農業経営の一部自由化）を認め、商工業発展のための外資の導入を行った。この政策によって、ソ連の経済は成長し、1928 年から実施した第 1 次五カ年計画では、さらなる成長を見せた。

問 10 21 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、a 列強による世界分割、b 第二次世界大戦と世界。イギリスとドイツの占領地に関する正誤問題。この問題では、(1)宗主国と占領国の組み合わせに齟齬がないか、(2)占領した時期が正しいか、の 2 点を検討する

必要がある。それぞれの国が占領される前後にカギとなる出来事（ウラービー＝パシャの乱，パルチザン）があるため，そこから時代背景を考えると，より根拠がある答えを選べる。

- a **正** イギリスがエジプトを占領したのは，**19 世紀後半**（1882 年）。1875 年に**スエズ運河会社の株式を獲得**したイギリスは，1881 年に起こった**ウラービー＝パシャの反乱**の鎮圧に成功した。イギリスは翌年にエジプトを占領し，**事実上の保護国**とした。正式に保護国化したのは 1914 年。
- b **正** ドイツが**ユーゴスラヴィア**を占領したのは，**第二次世界大戦中**（1941 年）。ドイツ占領に反対した**ティト**は，ドイツへの抵抗を呼びかけて**パルチザン**を結成し，連合国の支援を受けながら抵抗活動を行い，自力でドイツ軍に勝利した。

問 11 22 **正解は②**

難易度 ★☆☆☆☆

解説

出題分野は，主権国家の形成。18 世紀後半のポーランド分割に加わった国に関する問題。ポーランド分割にかかわった国 3 カ国を覚えておけば，正解にたどり着ける。

ポーランド分割に加わった国は，**プロイセン・ロシア・オーストリア**。1772 年の第 1 回ポーランド分割は 3 カ国によるもので，1793 年の第 2 回は，フランス革命の混乱を利用してプロイセンとロシアの 2 カ国によって行われた。1795 年の第 3 回は，再び 3 カ国で実施され，**ポーランド王国が消滅**した。正解は②。

（制作：重森理瑛，的場光紀）

2014年度 センター試験 本試験 世界史 A

第3問 世界史上の文化の交流や伝播

出題範囲	古代～近代の文化の交流・伝播の歴史
難易度	★★★☆☆
所要時間	15分
傾向と対策	2014年度の第3問では、まずAで仏教に関する問題が出題されている。教科書に仏教の歴史はまとめて扱われていないわりに、仏教に関する出題は多いので、自分なりに整理して覚えておこう。Bの問8のように、世界史上の社会的な運動も頻出である。Cについては、イベリア半島はキリスト教・イスラーム教双方の支配を受けた地域であり、王朝の興亡も激しいので、きっちりとおさえておこう。

A

問1 23 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、①古代オリエント文明、②、③、④南アジア世界。仏教に関する問題。宗教に関する知識は混同しやすいため、再度確認しておきたい。正解以外の選択肢も、どの宗教に関するものかを確認しておこう。

- ① 誤 善悪二神の対立を説いたのは、ゾロアスター教。イランの宗教としてB.C.7世紀頃に興ったゾロアスター教は善悪二元論にもとづき、世界を善の神アフラ＝マズダと悪の神アーリマンとの対立として捉えている。この宗教は、火と光の崇拝を重視し、アケメネス朝で保護され、ササン朝で国教とされた。また、ゾロアスター教では最後の審判が信じられていて、この概念はユダヤ教やキリスト教にも影響を与えた。
- ② 誤 ヴェーダを聖典としたのは、バラモン教。バラモン教では、バラモンがヴァルナの最上位としてヴァルナの秩序の維持に努め、自己の権威を高めるために複雑な祭式規定が発達した。祭式万能主義に陥ったバラモン教への反省と批判から、内面を重視し、輪廻転生・梵我一如^{ぼんがいちによ}を唱えるウパニシャッド哲学が生まれた。また、ヴァルナを否定して、ジャイナ教・仏教の新宗教が生まれた。
- ③ 正 アショーカ王の保護を受けたのは、仏教。マウリヤ朝の王・アショーカ王は、ダルマ（法）による支配を実施し、各地に石柱碑・磨崖碑^{まがい}を設置し、さらには第3回仏典結集^{けつじゅう}を援助した。また、スリランカなどの国外への布教活動を行った結果、上座部仏教が伝播した。
- ④ 誤 ヴァルダマーナ（マハーヴィーラ）が創始したのはジャイナ教。B.C.5世紀頃に創始されたジャイナ教は、徹底した不殺生と厳しい修行を重視した。また、ヴァルナ（カースト）を否定するため、ヴァイシャ（特に商人）から信仰された。

問 2 24 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

出題分野は、南アジア世界・東南アジア世界。仏教の伝播に関する正誤問題。大乘仏教と上座部（小乗）仏教に関する説明を逆にしている問題が多いため、それぞれの違いを確認しておくとうい。

- a 正 中国を経て、朝鮮半島に伝わったのは**大乘仏教**。中国には、**漢代**の B.C.2 年（前漢末）もしくは A.D.67 年（後漢初め）に**西域**から伝来したとされている。のちの魏晋南北朝時代には、渡来僧が到達して布教活動を行い、反対に**法顕**^{ほっけん}はインドに求法のために赴いて『**仏国記**』を記した。また、中国を経て、**朝鮮半島**・日本にも大乘仏教は伝来した。
- b 誤 日本に広まったのは**大乘仏教**。日本には、538 年（一説に 552 年）に**百済**を通じて仏教が伝来し、**聖徳太子**が**仏教の興隆**を推進した。奈良時代の**聖武天皇**は、仏教による「国家鎮護」を目指し、また仏教の戒律を伝えるために唐僧の**鑑真**を招き、**仏教の普及**に努めた。

問 3 25 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

出題分野は、a イスラム世界の再編、b 南アジア世界、c 諸民族の抵抗運動。インドにおける宗教と政治・社会とのかかわりの歴史に関する順序並び替え問題。それぞれの項目に関する出来事が思い浮かぶとよい。a はおおよそムガル帝国の時代、b はヒンドゥー教が確立した時期、c はインド国民会議派の形成時期、のように連想できれば、正解にたどり着きやすくなる。

- a **シク教**が成立したのは、**16 世紀初め**。**シク教**は、神秘主義**スーフィズム**と**バクティ信仰**を融合した宗教で、16 世紀初めに**ナーナク**が創始した。**イスラム教**の影響を強く受け、一神教を継承し、偶像を否定しカーストへの反対を唱えた。**インド = イスラム文化**の代表的な宗教として知られている。
- b 『**マヌ法典**』がまとめられたのは**5 世紀**。**グプタ朝**時代に『**マヌ法典**』が完成し、**ヒンドゥー教**が確立した。ヒンドゥー教が広く**普及**したのは、**ヴァルダナ朝**時代での**仏教の衰退**とほぼ同時期。『**マヌ法典**』は、各**ヴァルナ**の宗教的・社会的義務と生活規範が規定されたもので、バラモンの優位や女性への差別などが強調されている。この法典は、のちのインド社会に決定的な影響を与えた。
- c **全インド = ムスリム連盟**が**結成**されたのは、**20 世紀初め**（1906 年）。**反英**民族運動を率いる**インド国民会議派**に対抗しようとしたイギリスは、ヒンドゥー教徒とイスラム教徒の対立を利用しようとして、**全インド = ムスリム連盟**の結成を促した。イギリスの策略とは裏腹に、第一次世界大戦前後には**反英的**となり、国民会議派と提携したが、1937 年以後対立を深め、1940 年にはイスラム教徒の独立国家建設を決議した。よって、**b → a → c**が正しいため、正解は③。

問 4 26 正解は②

難易度 ★☆☆☆☆

解説

出題分野は、東アジア世界の形成。大陸文化の日本への流入に関する文章の空欄補充問題。この問題に関する正確な知識をもっているに越したことはないが、なくても文章中のキーワードを関連付けて正しい選択肢を選択することができる。

ア **ササン朝**が入る。キーワードは、「奈良の正倉院…ガラス製」。ササン朝の文化は、**ヘレニズム**の影響を受けつつ、アケメネス朝以来の古代**ペルシア文化**を復興・再確立したという特色をもつ。またササン朝美術は、装飾性に富んだ**金属器・ガラス器・織物**などに優れている。ササン朝の文化の影響は、西は**ビザンツ帝国**、東は**隋・唐・奈良時代の日本**にまで及ぶ。

イ **遣唐使**が入る。キーワードは、「奈良時代に海を渡って、日本にもたらされたもの」。奈良時代に実施されたのは、**遣唐使**（630～894年）。遣唐使の派遣を通じて、**唐文化**の輸入に成功し、大陸各地や唐の文化の影響を受けた国際色豊かな**天平文化**が栄えた。ちなみに、**朱印船貿易**は**江戸時代**に本格化した貿易体制で、1635年の渡航禁止まで行われた。日本はおもに**銀**を輸出し、**生糸**を輸入した。

B

問 5 27 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、①古代の地中海世界、②南アジア世界、③中世ヨーロッパ世界、④イスラーム世界の再編。アッバース朝が存続していた時期に起こった出来事に関する問題。まず、アッバース朝が(1)イスラーム教の王朝であること、(2)モンゴルのフラグにより滅ぼされたということ、の2点をおさえていれば、ある程度アッバース朝が存続していた時期（750～1258年）が特定できると考えられる。その時期が判明したあとは、選択肢の内容がいつの時代のものかを判別する必要がある。②以外は、正確な年号を覚えておきたい。

① 誤 **ローマ帝国**が東西に分裂したのは、**395年**。そもそも**イスラーム教**が創始されたのは、**7世紀**であるから、アッバース朝と同時期に起きた出来事ではない。**テオドシウス帝**の死を機に、ローマ帝国は東西に分裂し、**476年**に**西ローマ帝国**は滅亡した。東ローマ帝国は、**ビザンツ帝国**として15世紀末（**1453年**）まで存続した。ちなみに、アッバース朝が存続していた時期のビザンツ帝国では、マケドニア朝が開かれ、最盛期を迎えていた。

② 誤 **ガンダーラ美術**が栄えたのは、**クシャーナ朝**時代（1～3世紀頃）。①と同様、イスラーム王朝が建国されるのは**7世紀**以降であるから、アッバース朝と同時期に起きた出来事ではない。クシャーナ朝は、都を**プルシャプラ**に置き、**カニシカ王**の時代に最盛期を迎えた。その時代には、**第4回仏典結集**が実施され、**ナーガールジュナ**（竜樹）によって**大乘仏教**の教理が確立された。ちなみに、アッバース朝が存続していた時期のインドは、諸王朝に分裂していた。

- ③ 正 **カール大帝**が、ローマ教皇から**帝冠**を授けられたのは、**800年**。よって、アッバース朝が存続していた時期（750～1258年）に起こった出来事である。カール大帝は、**教皇レオ3世**から西ローマ皇帝の冠を授与された。しかし、それから半世紀経たぬうちに、843年の**ヴェルダン条約**で**フランク王国**が分割される。
- ④ 誤 **オスマン帝国**が、**ビザンツ帝国**を滅ぼしたのは、**1453年**。よって、アッバース朝が滅亡（1258年）したあとになるため、王朝存続の時期の出来事ではない。**1453年**に、オスマン帝国の**メフメト2世**は、ビザンツ帝国の首都である**コンスタンティノープル**を陥落させた。

問6 28 正解は③

難易度 ★☆☆☆☆

解説

出題分野は、イスラーム世界。イスラーム王朝の支配下のユダヤ教徒に関する空欄補充問題。キーワードが判別できると、基礎問題であることがわかる。不正解の場合は、必ず解説を確認しておこう。

ア **人頭税**が入る。キーワードは、「ジズヤ」。イスラーム王朝の支配下では、ジンミーと呼ばれる**異教徒**に、**ジズヤ**と呼ばれる**人頭税**を納める義務が課せられた。**ウマイヤ朝**では、**アラブ人ムスリム**のみが、**ジズヤ**、**ハラージュ**を免除されていたが、**アッバース朝**では、すべてのイスラーム教徒が、**ジズヤ**を免除され、**ハラージュ**の納入を課された。

イ **地租**が入る。キーワードは、「ハラージュ」。イスラーム王朝の支配下では、異教徒は**ハラージュ**と呼ばれる**地租**を課せられた。ちなみに**十分の一税**は、封建社会下の**中世ヨーロッパ**で**教会**に対して**農奴**が納めなければならなかった税。この税の論拠は旧約聖書にある。

問7 29 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

出題分野は、イスラーム世界。イスラーム文明（イスラーム文化）に関する問題。「誤っているものを選ぶ」ことに留意する。イスラーム文化は覚える要項が多い上に頻出であるため、必ず確認しておきたい。

- ① 正 **イスラーム教**と**アラビア語**をもとに、**多文化**が融合して発達した。イスラーム文化は、**ギリシア・ローマ文化**や**オリент文明・インド文明**などを継承・発展させたもの。そのため、ギリシア文化からは**哲学**や**地理学**などが、インド文明からは**数学**や**幾何学**などの学問が継承されている。
- ② 誤 独自の絵文字は作成されず、**アラビア文字**が使用された。また、**太陰暦**である**イスラーム暦**が作られた。
- ③ 正 **イスラーム文化**での**装飾文様**は、**アラベスク**と呼ばれた。偶像崇拜につながる人物画を避けたイスラーム圏で発達した。植物の葉や茎を図案化して**幾何学的**に連続配置した**装飾文様**で、アラビア文字も図案化された。
- ④ 正 **近代科学の基礎**である**医学・天文学**などが発達した。**医学**や**天文学**は外来の学問として取り入れられ、医学においては**イブン＝シーナー**がサーマーン朝で活躍し、『**医学典範**』を著した。天文学においては、**占星術**

から**太陰暦**の暦法が発達し、元代の**授時暦**（太陰太陽暦）に影響を与えた。

◆整理 イスラーム文化史における「イブン」

- ・イブン=ハルドゥーン：『世界史序説』を著し、近代社会科学に通じる諸説を打ち立てた。
- ・イブン=ルシュド：アリストテレス哲学の注釈に大きな業績を残した。
- ・イブン=シーナー：サーマーン朝で活躍し、『医学典範』を著した。
- ・イブン=バットウータ：モロッコ出身、『三大陸周遊記』を著した。

問 8 30 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

出題分野は、①古代の地中海世界、②帝国主義の成立と大衆社会の到来、③19世紀の欧米文化、④ルネサンスと宗教改革。イスラーム文明（イスラーム文化）などとの交流を経て、イタリアで14世紀に興った文化運動に関する問題。基礎問題であるが、正解以外の選択肢がいつの時代のもので、内容がどのようなものか、ということを確認しておく役立つ。

- ① 誤 **ヘレニズム**は、**B.C.334 ~ A.D.30**年（アレクサンドロス大王の東方遠征～プトレマイオス朝滅亡）の歴史と文化のことを指す。**ギリシア文化とオリエン特文化**の融合で形成され、**世界市民主義（コスモポリタニズム）・個人主義**の傾向があり、**自然科学**の発達が著しかった。
- ② 誤 **シュルレアリスム**（シュールレアリスム、**超現実主義**）は、**20世紀**（1920～1930年代）を中心に盛んになった芸術運動。**フロイト**の精神分析の影響を受け、人間の心理や精神に内在する夢や潜在意識を探求・描写することを主眼とした。代表的な超現実主義の画家は、**ダリ**、エルンスト、シャガール、タンギー。ダリはスペイン出身の画家で、『**記憶の固執**』や『**内乱の予感**』などを描いた。後述する「**整理 20世紀の美術**」も活用してほしい。
- ③ 誤 **ジャポニスム**は、**19世紀後半**から広まった**日本美術ブーム**。浮世絵に刺激され、印象派の画家たちは風景・役者・美人といった世俗的な主題を好んで描き、手法も参考にした。ちなみに、ブームのきっかけは、パリの版画家が陶器の包装紙として使われていた葛飾北斎の『**北斎漫画**』を発見したこととされている。
- ④ 正 **ルネサンス**は、**14～16世紀**にかけて**イタリア**で興り、西欧各地に展開した芸術・思想上の新たな動き。「**文芸復興**」とも呼ばれるこの運動は、**古代ギリシア・ローマ文化**を模範とし、神や教会を中心とする**中世的な世界観**から、**人間中心の世界観（ヒューマニズム）**への転換が模索された。

◆整理 イタリアでルネサンスが始まった要因

- ・十字軍以降、先進的なビザンツ文化やイスラーム文化が流入。
- ・東方貿易の利益で自治都市が繁栄し、市民意識が高揚。
- ・イタリアがローマ文化の故地。

◆整理 20 世紀の美術

- ▷野獣派（フォーヴィスム）：印象派画風への反発，単純化されたフォルムと鮮明な原色による大胆な描写。
代表画家：マティス『生きる喜び』，ルオー
- ▷立体派（キュピスム）：色彩を重視せず，形体を強調して立体的に描写。
代表画家：ピカソ『ゲルニカ』『朝鮮の虐殺』
- ▷超現実派（シュルレアリスム）：人間の心理や精神に内在する夢や潜在意識を探求・描写。
代表画家：ダリ『記憶の固執』『内乱の予感』，エルンスト『百頭の女』

C

問9 31 正解は①

難易度 ★☆☆☆☆

解説

出題分野は，①，②ルネサンスと宗教改革，③東アジア世界の発展，④古代の地中海世界。イエズス会の創始者に関する問題。この問題も基礎問題であるため，正解したい。正解以外の選択肢の人物が何を行ったかということも確認しておきたい。

- ① 正 イグナティウス＝ロヨラは，イエズス会の創始者。彼はもともとスペインの騎士であったが，ザビエルら6人とともにイエズス会を結成し，初代総長になった。イエズス会とは，1534年に設立された旧教派の修道会で，教会に対し絶対服従を誓い，厳格な組織と規律をもち，対抗宗教改革の先頭に立った。1773年に教皇の命令で解散するも，再興されて現在に至る。
- ② 誤 カルヴァンは，宗教改革の代表的人物で，1536年にバーゼルで『キリスト教綱要』を発表し，1541年にジュネーヴで改革を開始した。彼は，ルターと同様に福音主義を解いたが，予定説や職業召命観（職業は神から与えられた使命であるとする考え方）をさらに説き，長老制度を実施した。
- ③ 誤 カスティリオーネは，イエズス会宣教師として1715年に北京に入り，宮廷画家として雍正帝・乾隆帝に仕え，西洋画法を紹介した。また，彼は円明園の設計に参画したことでも知られている。
- ④ 誤 ペテロは，キリスト教の最高位の使徒として，ローマ伝道にいそしんだが，ネロの迫害で殉教し，その

墓の上にサン＝ピエトロ大聖堂（ヴァチカン市国）が建設された、とされている。のちに初代ローマ皇帝と位置付けられた。

問 10 32 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

出題分野は、中世ヨーロッパ世界。第 1 回十字軍がイスラーム勢力から奪回した都市と、その地図上での位置に関する問題。7 回にわたる十字軍の契機や結果を「**整理 十字軍の契機・結果**」で確認しておくといよい。

まず、地名と地図上での位置が一致しているのが、①と④。第 1 回十字軍がイスラーム勢力から奪回した都市は、**エルサレム**。よって、正解は④**エルサレムーb** である。第 1 回十字軍は、聖地を占領することに成功し、1099 年に**エルサレム王国**を建国した。ちなみに、①**コンスタンティノーブルーa** は、第 4 回十字軍によって占領された。

◆整理 十字軍の契機・結果

▷第1回十字軍○（1096～1099年）：クレルモン宗教会議でウルバヌス2世提唱

契機：セルジューク朝のイェルサレム占領+小アジア進出

実施：仏、南伊の騎士・諸侯が参加

結果：聖地占領に成功、イェルサレム王国建国（1099年）

▷第2回十字軍×（1147～1149年）

契機：セルジューク朝の勢力回復

実施：皇帝（コンラート3世）、仏王ルイ7世参加

結果：ダマスカスを攻撃するも失敗

▷第3回十字軍×（1189～1192年）

契機：サラディンの聖地奪還

実施：皇帝フリードリヒ1世、仏王フィリップ2世、英王リチャード1世参加

結果：失敗

▷第4回十字軍△（1202～1204年）：インノケンティウス3世提唱

実施：ヴェネツィア商人も参加

結果：コンスタンティノーブル攻撃→ラテン帝国建国

▷第5回十字軍△（1228～1229年）

契機：エジプトによる聖地占領

実施：皇帝フリードリヒ2世参加

結果：交渉→一時聖地回復→トルコが奪取

▷第6回十字軍×（1248～1254年）：グレゴリウス9世提唱

目的：聖地占領

実施：仏王ルイ9世参加

結果：カイロ攻撃→ルイ9世捕虜に

▷第7回十字軍×（1270年）

目的：チュニス攻略

実施：仏王ルイ9世

結果：チュニス攻撃→王病死→失敗

十字軍最後の拠点アッコ陥落（1291年）

問 11 33 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

出題分野は、**a** フランス革命とナポレオン、**b** イスラーム世界。イベリア半島の美術と建築に関する正誤問題。この問題は、(1)事実誤認の有無、(2)イベリア半島における記述であるか、の2点を検討する必要がある。**a** に関しては、近代の文化は混同しやすいため、確認しておくといよい。

- a 正** ナポレオン軍による**スペイン人の処刑**を描いたのは、**ゴヤ**。ゴヤは、**スペイン**出身の画家で、ロココ的・幻想的・風刺的な作風を保持した。スペイン人の処刑を描いた『1808年5月3日』は、彼の代表的な作品として知られている。
- b 正** 代表的な**イスラーム建築**の1つとして、**アルハンブラ宮殿**がある。アルハンブラ宮殿は、**ナスル朝**時代にグラナダに建設された宮殿。華麗な**アラベスク**で飾られ、西方**イスラーム**世界の代表的な建築物として知られている。

(制作：重森理瑛，町田佳奈子)